

エコアクション21 環境経営レポート

2024年度

活動期間：R5年7月～R6年6月



写真：大田原営業所・太陽光発電システム



OHMURA SOGYO

株 式 会 社 大 村 総 業

2024年 11月 1日



— 目次 —

I. 組織の概要	1
II. 会社沿革の概要	2
III. E A 2 1 適用事業範囲	2 ~ 1 2
IV. 環境経営方針	1 3
V. 環境活動実施体制図	1 4
VI. 環境経営目標	1 5
VII. 環境経営目標の実績	1 6 ~ 2 1
VIII. 環境経営目標の評価（是正処置）	2 1
IX. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組み	2 2
X. 環境関連法規への違反、訴訟の有無	2 3
X I. 代表者による評価・見直し	2 4

I. 組織の概要

商号	株式会社大村総業
代表者氏名	代表取締役社長 等々力 けい子
本社所在地	〒416-0931 静岡県富士市蓼原49-4 TEL : 0545-61-0616 FAX : 0545-61-0782 URL : https://www.ohmura-sogyo.com E-mail : honssha@ohmura-sogyo.com
事業場	富士営業所・工場、五貫島工場、沼津営業所・工場、横浜営業所・工場 大黒梱包工場、大田原営業所・工場、磐田工場
対象範囲	全活動、全組織、全従業員を対象とした全社的取組
創業	明治36年
設立	昭和28年7月
売上高	54億円(71期: R5.7月~R6.6月)
資本金	5,000万円
事業年度	7月1日 ~ 6月30日
従業員数	260人
床面積	27,323㎡(全社計)
業務内容	輸出梱包、パレット・トライオール・梱包製造資材販売、トラック輸送、 荷役運搬、重量物運搬・据付、倉庫管理、通関業、保税蔵置場管理 太陽光発電事業



Ⅱ．会社沿革の概要

1903 年(明治 36 年)	大村回漕店創立(現 JR 東神奈川駅前)
1935 年(昭和 10 年)	株式会社大村組に社名変更
1942 年(昭和 17 年)	横浜大村組富士出張所開設
1953 年(昭和 28 年)	横浜大村組より分離独立 会社設立 資本金 100 万円 富士営業所・沼津営業所開設
1959 年(昭和 34 年)	川崎営業所開設
1964 年(昭和 39 年)	沼津営業所・富士営業所新築
1966 年(昭和 41 年)	磐田出張所開設
1973 年(昭和 48 年)	株式会社大村総業に社名変更
1979 年(昭和 54 年)	大田原営業所開設
2002 年(平成 14 年)	川崎営業所移転横浜営業所開設
2003 年(平成 15 年)	通関業許可証取得
2011 年(平成 23 年)	富士営業所 新築移転 大田原営業所 事務所棟・倉庫棟・車庫棟 新築
2016 年(平成 28 年)	横浜営業所大黒梱包工場 開設
2018 年(平成 30 年)	地域未来牽引企業選定
2019 年(令和 元年)	特定保税承認者(AEO)承認
2021 年(令和 3 年)	認定通関業者 認定

Ⅲ．E A 2 1 適用事業範囲

統括管理責任者

瀬上 岩男

1. 本社

〒416-0931 静岡県富士市蓼原 4 9 - 4

TEL : 0545-61-0616

FAX : 0545-61-0782

社員数 25 人

延べ床面積 630㎡

立地条件 住宅地域

環境管理責任者 伊藤歩美

E A 2 1 責任者 敷根和葉(連絡担当者)



2. 富士営業所・工場

〒416-0941 静岡県富士市五貫島字世帯割 866-3

TEL : 0545-61-3393

FAX : 0545-61-3420

従業員数 59人

延べ床面積 2,307㎡

立地条件 工業地域

環境管理責任者 志村 博光

E A 2 1 責任者 大槻 真穂(連絡担当者)



工場内梱包作業風景



荷役作業風景

保有車両

低床ウイング車	17サス 13 トン	6 輛
ウイング車	4 トン	2 輛
ウイング車	3 トン	1 輛
フォークリフト	3 トン	1 台
フォークリフト	2.5 トン	2 台
フォークリフト	1.8 トン	8 台
フォークリフト	1.5 トン	49 台

3. 五貫島工場

〒静岡県富士市五貫島字世帯割 920-2

TEL : 0545-63-1100

FAX : 0545-64-7974

従業員数 8人

延べ床面積 2,528㎡

環境管理責任者 志村 博光

E A 2 1 責任者 大槻 真穂(連絡担当者)



工場内梱包作業風景



輸出梱包作業風景

保有車両

ユニック車	4 トン	1 輛
ウイング車	4 トン	1 輛
フォークリフト	10 トン	1 台
フォークリフト	4.5 トン	1 台
フォークリフト	3.5 トン	1 台
フォークリフト	2.5 トン	2 台

4. 沼津営業所・工場

〒410-0005 静岡県沼津市双葉町 9-11-11

TEL : 055-921-4939

FAX : 055-921-0432

従業員数 45人

延べ床面積 4,556㎡

立地条件 工業地域

環境管理責任者 篠原 一彦

E A 2 1 責任者 若月 佳太(連絡担当者)



熱処理設備



輸出梱包作業風景

保有車両

低床トレーラー	34 トン	2 輛
低床アコーディオン幌車	14 トン	1 輛
低床平エアサス車	14 トン	5 輛
低床ウイングエアサス車	13 トン	1 輛
平エアサス車	4 トン	2 輛
平ボディー車	3 トン	1 輛
平ボディー車	2 トン	2 輛
エアサスウイング車	4 トン	1 輛
フォークリフト	15 トン	1 台
フォークリフト	8 トン	1 台
フォークリフト	5 トン	1 台
フォークリフト	4.5 トン	2 台
フォークリフト	3 トン	1 台
フォークリフト	2.5 トン	1 台
フォークリフト	1.5 トン	4 台
中低床トレーラー	30 トン	1 輛

5. 磐田工場

〒438-0832 静岡県磐田市森岡 208-1

TEL : 0538-34-3237

FAX : 0538-34-9029

従業員数 24人

延べ床面積 2,620㎡

立地条件 工業地域

環境管理責任者 立田 邦俊

E A 2 1 責任者 村山 鮎美 (連絡担当者)



フォークリフト荷役作業風景



梱包資材製造作業風景

保有車両

ウイング車	4 トン	1 輛
平幌車	2 トン	1 輛
フォークリフト	7 トン	1 台
フォークリフト	3.5 トン	1 台
フォークリフト	2 トン	3 台

6. 横浜営業所・工場

〒230-0054 神奈川県横浜市鶴見区大黒ふ頭22番(Y-CC)

TEL: 045-510-2090

FAX: 045-510-2096

従業員数 27人

延べ床面積 8,685㎡

環境管理責任者 望月 一仁

E A 2 1 責任者 島 仁(連絡担当者)



フォークリフト荷役作業風景

保有車両

ユニック車	4 トン	3 輛
ユニック車	3.5 トン	1 輛
ユニック車(ゲート付)	3.5 トン	2 輛
箱車(ゲート付)	2 トン	1 台
ボックス車(ゲート付)	1.2 トン	2 輛
ボックス車	1.2 トン	1 台
ウイング車(ゲート付)	エアス 4 トン	1 輛
フォークリフト	3.5 トン	1 台
フォークリフト	3 トン	2 台
フォークリフト	2.5 トン	3 台
フォークリフト	1.5 トン	2 台
フォークリフト	1 トン	1 台

7. 大黒梱包工場

〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町1-37

TEL: 045-504-9080

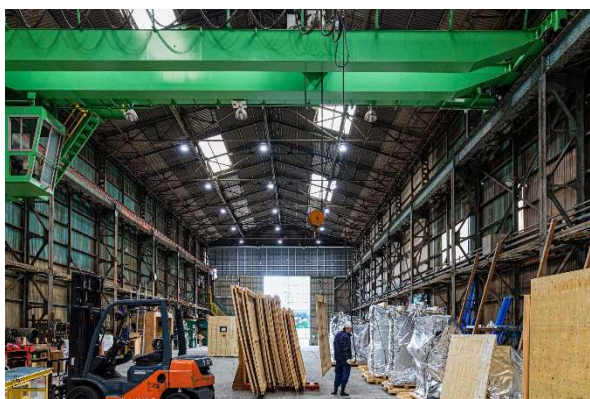
FAX: 045-504-2085

従業員数 14人

延べ床面積 2,930㎡

環境管理責任者 望月 一仁

E A 2 1 責任者 内野 剛史(連絡担当者)



工場内梱包作業風景



フォークリフト荷役作業風景

保有車両

フォークリフト	5 トン	1 台
フォークリフト	2.5 トン	1 台

8. 大田原営業所・工場

〒324-0036 栃木県大田原市下石上1606-2

TEL: 0287-29-0811

FAX: 0287-29-2315

従業員数 58人

延べ床面積 5,997㎡

立地条件 工業地域

環境管理責任者 北原 勝広

E A 2 1 責任者 伊藤 佳剛(連絡担当者)



医療機器搬入作業風景



工場内梱包作業風景

保有車両

低床フォークリフト車	17サ 14 トン	2 輛
低床ウイング車	17サ 14 トン	1 輛
平エアサス車	4 トン	4 輛
ウイング車(ゲート付)	17サ 4 トン	1 輛
ウイング車(ゲート付)	2 トン	1 輛
ユニック車	17サ 4 トン	4 輛
ウイング車	4 トン	1 輛
ボックス車(ゲート付)	1 トン	1 輛
ウイング車	3 トン	1 輛
フォークリフト	5 トン	1 台
フォークリフト	3 トン	1 台
フォークリフト	2.5 トン	9 台
フォークリフト	1.5 トン	1 台

①梱包

輸出用大型木箱梱包、ダンボール梱包、スチール梱包、精密機械梱包、真空梱包、パレタイズ梱包、ストレッチ梱包、パレット製作など、お客様の多様なニーズにあわせた最適な提案をしています。



輸出用大型木箱梱包



スチール梱包



パレット製作



真空梱包



ストレッチ梱包

②輸送

当社の車両はアイドリングストップやデジタルタコグラフの装着により、スピードを抑制し、エコドライブを徹底して、質の高い運行管理を行うことで、安全・確実・迅速をモットーに、多種多様な物流ニーズに豊富な輸送メニューで常に最適な輸送サービスをご提供しています。



重量物運搬用セミトレーラー



平エアサス車



ユニック車

③強化ダンボール

外観は普通の段ボールと同様に見えますが、圧縮強度、破裂強度、耐湿性など全ての性能に於いて極めて高い信頼度を有しており、輸出梱包に於いて特徴ある重量物梱包材です。



④重量物据付

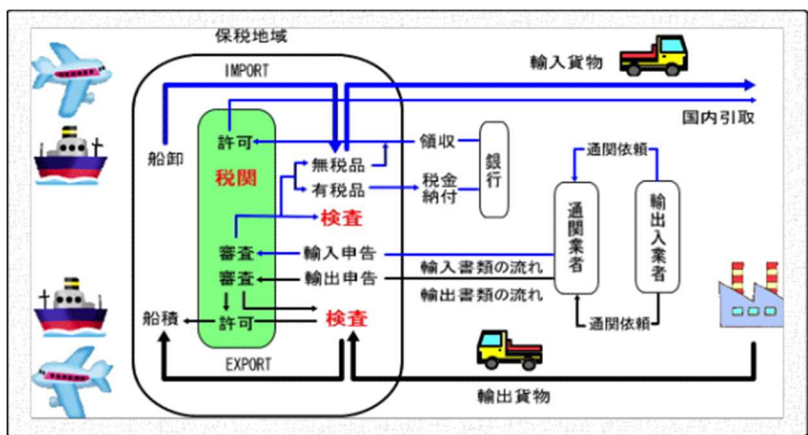
各種プラント・大型機械設備の搬入、据付、解体、搬出、輸送作業を行っております。そして、安全・確実な作業を行うために、社員教育・技術の向上を常に目指しています。



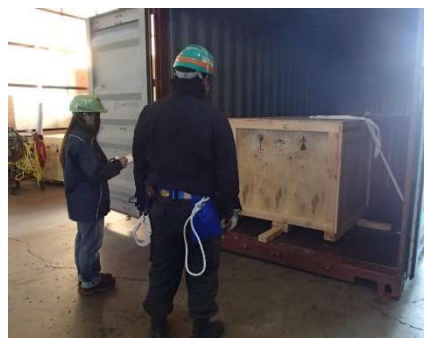
重量物の搬出・輸送・据付作業風景

⑤通関

税関への申告・申請及び他法令手続き等の複雑な一連の事務手続きを NACCS SYSTEM を用いて的確に行っております。許可後には自社において保管・輸送など、お客様の様々なニーズにお応えする細かいサービスの提供が可能です。



バンニング・デバンニング荷役作業風景



バンニング作業・バンニング作業時の確認風景

IV. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

基本理念

株式会社大村総業は、かけがえのない地球環境保全が人類共通の重要課題の1つであることを認識し、すべての事業活動を通じて環境負荷の低減を図るために行動する。

基本方針

株式会社大村総業は、梱包・輸送・保管業務を中心とした事業活動を通じ、以下の方針に基づいて、環境管理活動を行い、地域および地球環境との調和を目指す。

1. 当社は、環境管理体制を整備し、継続的な改善と汚染の予防に積極的に取り組む。
2. 当社は、環境に関連した法令・条例・協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
3. 当社が行う事業活動が環境に与える影響の中で、次の項目を重点推進項目として自主的に取り組む。
 - ① 輸送、営業車両の燃料の低減及び・電気使用量の削減による二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 梱包廃棄物の削減・適正処理、リサイクルを行います。
 - ③ 水使用量の削減に努めます。
 - ④ 事務用紙使用量の削減・グリーン購入及びグリーン調達に努めます。
4. 当社は技術的・経済的に可能な範囲で環境経営目標を設定して取り組み、定期的な見直しを実施する。
5. 環境教育・掲示物などで全社員への環境経営方針の理解と環境に関する意識高揚を図る。また、取引業者および社外一般へ、必要に応じて環境経営方針を周知し、理解と協力を得る。
6. 当社は、環境に有益な活動を積極的に推進し、環境面での社会貢献活動に取り組むと共に地域社会との調和に努めます。

制定 2007 年 12 月 1 日

改定 2010 年 12 月 1 日

改定 2012 年 8 月 1 日

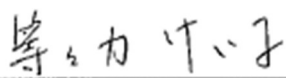
改定 2013 年 8 月 1 日

改定 2014 年 9 月 18 日

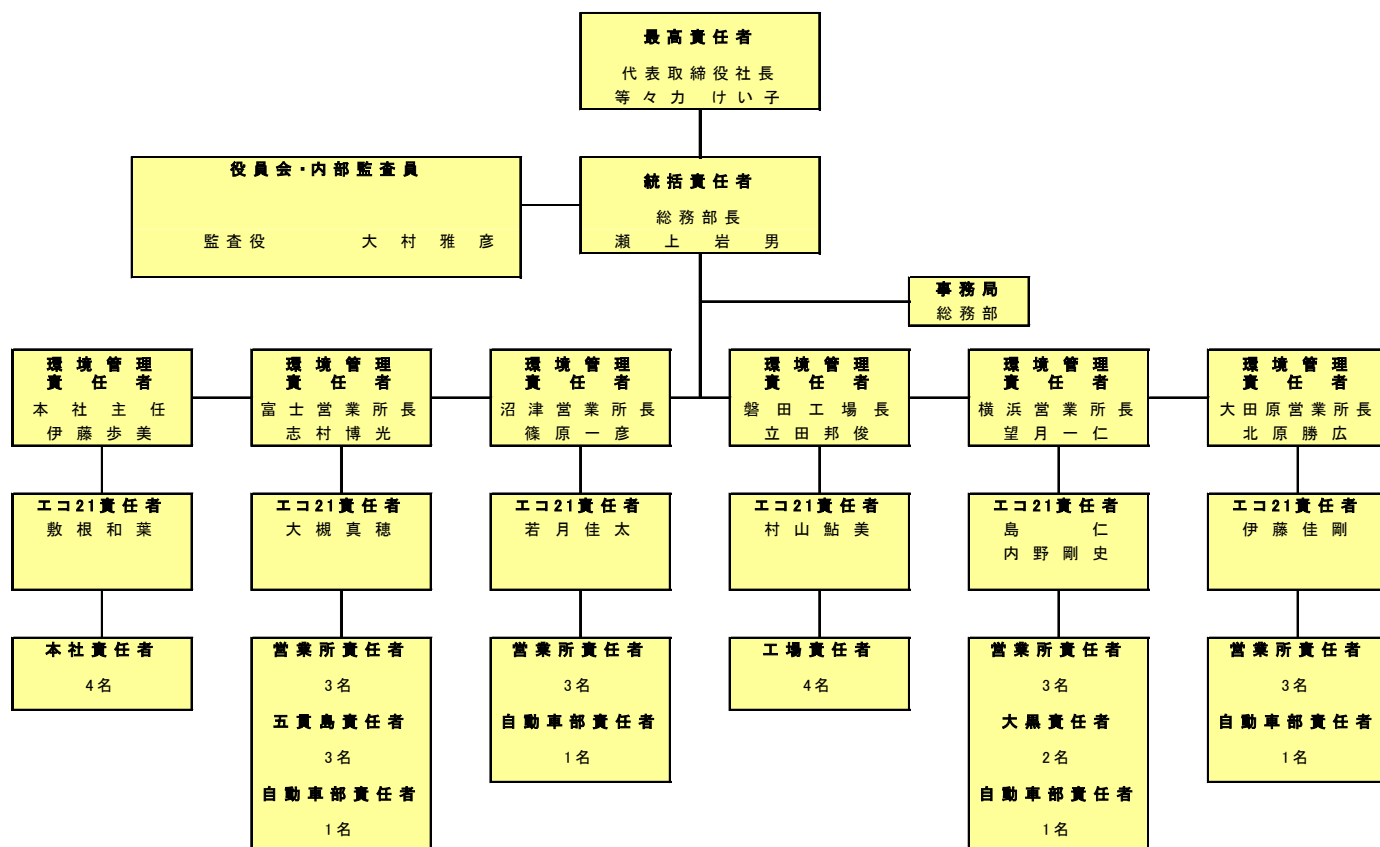
改定 2015 年 9 月 18 日

改定 2019 年 8 月 30 日

株式会社 大村総業
代表取締役社長



V. 環境活動実施体制図



担当	役割・責任・権限
環境管理最高責任者 (代表取締役社長)	- 環境管理統括責任者の任命 - 環境経営方針の策定、改定 - 経営資源(人材・資金・時間・設備・技術力等)の準備 - 環境経営レポートの承認 - システムの評価と見直し
環境管理統括責任者 (総務部長)	- EA21 システムの確立と実施の推進 - 環境負荷、取組みへの自己チェックの承認 - 関連環境法規の取りまとめ及び遵守状況の承認 - 環境経営目標及び環境経営計画の策定 - 環境関連文書の作成と報告 - 環境経営レポートの承認
環境管理事務局 (総務部)	- 環境負荷、取組みへの自己チェックの実施 - 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況の確認 - 環境文書及び記録の作成 - 外部コミュニケーションの窓口及び運営管理 - 教育訓練計画の策定と実施 - 緊急時対応訓練の推進 - 環境経営レポートの作成
環境管理責任者 (各事業所長)	- 責任範囲の環境経営目標及び環境経営計画の実施と EA21 事務局への達成状況 - 責任範囲の問題点の発見、是正、予防措置 - 社員に対する教育訓練の実施
EA21 責任者と全社員	当社に構築された環境経営システムを理解し、策定された環境方針の下、環境経営目標の達成に向けて環境経営計画に基づき、一致協力して環境保全への取り組みを行う
内部監査員	内部監査の実施と審査結果の報告。 監査結果に基づく是正勧告。

VI. 環境経営目標

全体

取組項目			基準値	環境目標				
			R4. 7～R5. 6	R5. 7～R6. 6	R6. 7～R7. 6	R7. 7～R8. 6	R8. 7～R9. 6	
二酸化炭素排出量の削減	1	電力	737138.00 Kwh	1 %削減 729766.62 Kwh	1 %削減 722468.95 Kwh	1 %削減 715244.26 Kwh	1 %削減 708091.82 Kwh	
	2	ガソリン	30663.08 ℓ	1 %削減 30356.45 ℓ	1 %削減 30052.88 ℓ	1 %削減 29752.36 ℓ	1 %削減 29454.83 ℓ	
	3	軽油	432434.85 ℓ	1 %削減 428110.50 ℓ	1 %削減 423829.40 ℓ	1 %削減 419591.10 ℓ	1 %削減 415395.19 ℓ	
	CO2 合計		1536128.62 kg-CO2	1520767.33 kg-CO2	1505559.66 kg-CO2	1490504.06 kg-CO2	1475599.02 kg-CO2	
廃棄物の削減及びリサイクル化	4	廃棄物の削減とリサイクル率の向上	総廃棄物量 543.115 t	1 %削減 537.684 t	1 %削減 532.307 t	1 %削減 526.984 t	1 %削減 521.714 t	
			リサイクル率 84.50 %	1 %向上 85.35 %	1 %向上 86.20 %	1 %向上 87.06 %	1 %向上 87.93 %	
水使用量の削減	5	水資源使用料の削減	1933.00 m³	1 %削減 1913.67 m³	1 %削減 1894.53 m³	1 %削減 1875.59 m³	1 %削減 1856.83 m³	
エコマーク製品の購入	6	グリーン購入の促進						
				1 品目以上増加	1 品目以上増加	1 品目以上増加	1 品目以上増加	

※化学物質については取引先の指定の接着剤（ボンド）を使用しているので削減出来ない為、管理を実施していきます。

VII. 環境経営目標の実績

環境活動計画に沿った１年間の運用期間（R5. 7 月～R6. 6 月）の実績値と目標値（基準値の１％削減）を比較する。

１）電力使用量の削減（１％削減）

電力使用量の削減	部門	基準値 R4. 7 月～R5. 6 月	目標値 基準値の１％削減	実績値 R5. 7 月～R6. 6 月	達成率
	全体	737138.00 Kwh	729766.62 Kwh	759797.00 Kwh	96 %
	本社	29760.00 Kwh	29462.4 Kwh	28672.00 Kwh	103 %
	富士	112875.00 Kwh	111746.25 Kwh	136950.00 Kwh	82 %
	沼津	122285.00 Kwh	121062.15 Kwh	123754.00 Kwh	98 %
	磐田	47528.00 Kwh	47052.72 Kwh	43060.00 Kwh	109 %
	横浜	311800.00 Kwh	308682.0 Kwh	297822.00 Kwh	104 %
	大田原	112890.00 Kwh	111761.1 Kwh	129539.00 Kwh	86 %

* 大田原営業所・太陽光発電システムの売電量（240Kwh 換算）

期 間	R3. 7～R4. 6	R4. 7～R5. 6	R5. 7～R6. 6
売電量	163393 Kw	164833 Kw	170403 Kw

* 本社、富士営業所、沼津営業所、横浜営業所、大田原営業所は、東京電力の令和４年度二酸化炭素排出係数 0.451 にて算出。

磐田工場は中部電力の令和４年度二酸化炭素排出係数 0.382 にて算出

2) 化石燃料使用量の削減 (1%削減)

ガソリン 使用量 の 削 減	部門	基準値	目標値	実績値	達成率
	全体	30663.08 ℓ	30356.45 ℓ	30864.37 ℓ	98 %
	本社	3772.99 ℓ	3735.26 ℓ	2920.50 ℓ	128 %
	富士	3985.37 ℓ	3945.52 ℓ	4430.45 ℓ	89 %
	沼津	6446.80 ℓ	6382.33 ℓ	5820.00 ℓ	110 %
	磐田	5383.95 ℓ	5330.11 ℓ	5584.24 ℓ	95 %
	横浜	8021.97 ℓ	7941.75 ℓ	8550.18 ℓ	93 %
	大田原	3052.00 ℓ	3021.48 ℓ	3559.00 ℓ	85 %
軽油 使用量 の 削 減	部門	基準値	目標値	実績値	達成率
	全体	432434.85 ℓ	428110.50 ℓ	424015.04 ℓ	101 %
	富士	101548.99 ℓ	100533.50 ℓ	102243.41 ℓ	98 %
	沼津	163957.60 ℓ	162318.02 ℓ	166759.80 ℓ	97 %
	磐田	9272.76 ℓ	9180.03 ℓ	8312.83 ℓ	110 %
	横浜	25001.50 ℓ	24751.49 ℓ	21773.00 ℓ	114 %
	大田原	132654.00 ℓ	131327.46 ℓ	124926.00 ℓ	105 %

電気・ガソリン・ 軽油 CO2 合計	1536128.62 kg-CO2	1520767.33 kg-CO2	1505261.45 kg-CO2	101%
電気・ガソリン・ 軽油・LPG・ 灯油 CO2 合計	1559103.02 kg-CO2	1543511.99 kg-CO2	1530562.03 kg-CO2	101%

○1万円当たりのCO2排出量を原単位で算出

電気・ガソリン・ 軽油・LPG・ 灯油 CO2 原単位	昨年 (R4.7~R5.6)	今年 (R5.7~R6.6)	削減率
CO2/売上高	2.90/万	2.85/万	102%

3) 廃棄物の削減 (1%削減)

廃棄物の削減	部門	基準値	目標値	実績値	達成率
	全体	543.115 t	537.684 t	599.154 t	90 %
	富士	88.083 t	87.202 t	155.940 t	56 %
	沼津	107.256 t	106.183 t	99.355 t	107 %
	磐田	127.040 t	125.770 t	109.553 t	115 %
	横浜	66.195 t	65.533 t	59.960 t	109 %
	大田原	154.541 t	152.996 t	174.346 t	88 %

※リサイクル率の向上(1%向上)

目標値 66.02% に対して、実績値 66.52% と目標を達成出来ませんでした。

4) 水使用量の削減 (1%削減)

水使用量の削減	部門	基準値	目標値	実績値	達成率
	全体	1933 m ³	1913.67 m ³	1905 m ³	100 %
	本社	122 m ³	120.78 m ³	113 m ³	107 %
	富士	329 m ³	325.71 m ³	322 m ³	101 %
	沼津	387 m ³	383.13 m ³	484 m ³	79 %
	磐田	133 m ³	131.67 m ³	80 m ³	165 %
	横浜	635 m ³	628.65 m ³	644 m ³	98 %
	大田原	327 m ³	323.73 m ³	262 m ³	124 %

5) グリーン購入の推進

グリーン購入の推進	部門	目標値	実績値	評価
	全体	1品目以上増加	39品目	達成
	本社	1品目以上増加	10品目	達成
	富士	1品目以上増加	18品目	達成
	沼津	1品目以上増加	7品目	達成
	磐田	1品目以上増加	1品目	達成
	横浜	1品目以上増加	2品目	達成
	大田原	1品目以上増加	1品目	達成

環境経営目標 & 達成状況の推移 (H29～R6)

【全社】

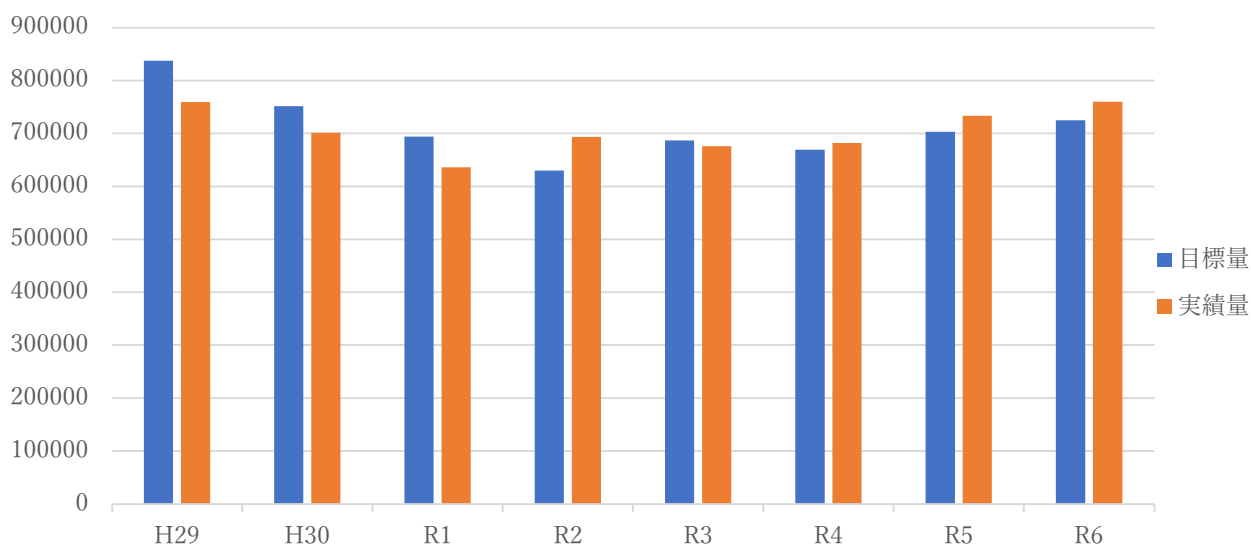
(目標値を上回った実績値は赤字で表記)

電力使用量

(kwh)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標量	837480	751617	694314	629769	686670	669165	703310	725189
実績値	759205	701328	636131	693607	675925	682010	733278	759797

電気使用量

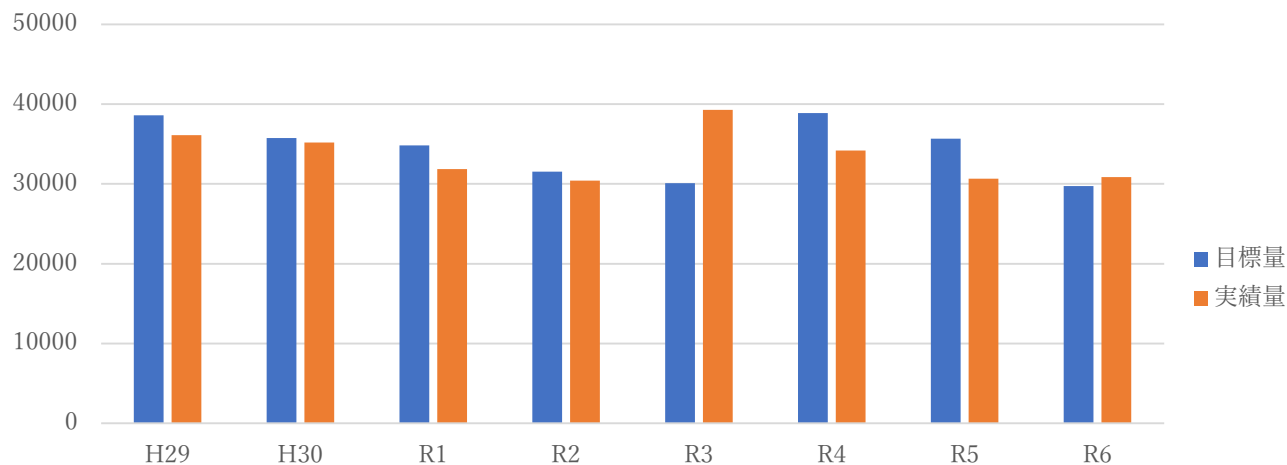


ガソリン使用量

(ℓ)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標量	38589	35730	34818	31525	30107	38882	35653	29715
実績値	36091	35170	31843	30411	39275	34173	30665	30864

ガソリン使用量



環境経営目標 & 達成状況の推移 (H29～R6)

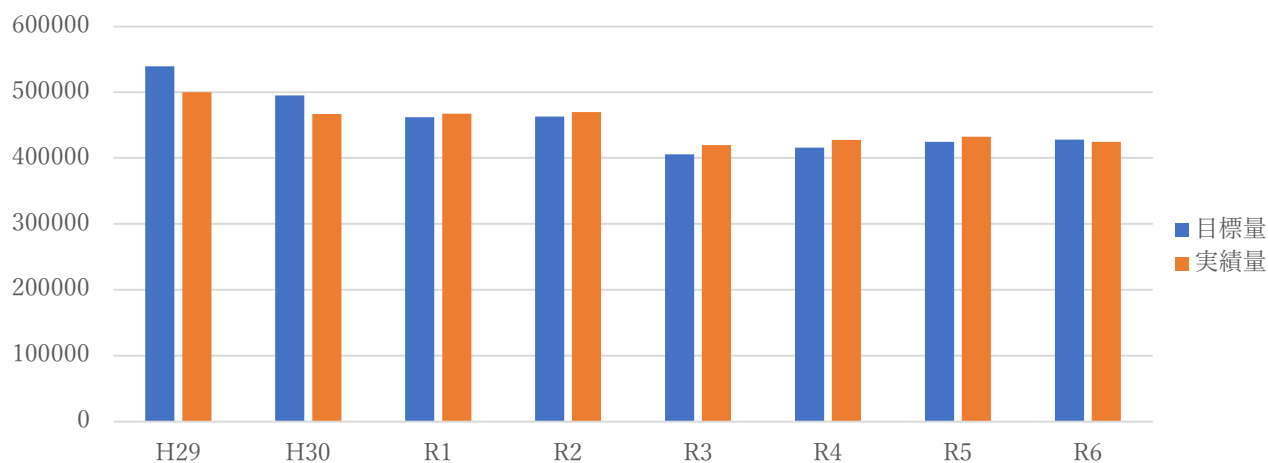
【全社】

軽油使用量

(ℓ)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標量	539168	494848	461962	462805	405702	415604	424703	428111
実績値	499846	466628	467479	409800	419802	427664	432435	424630

軽油使用量

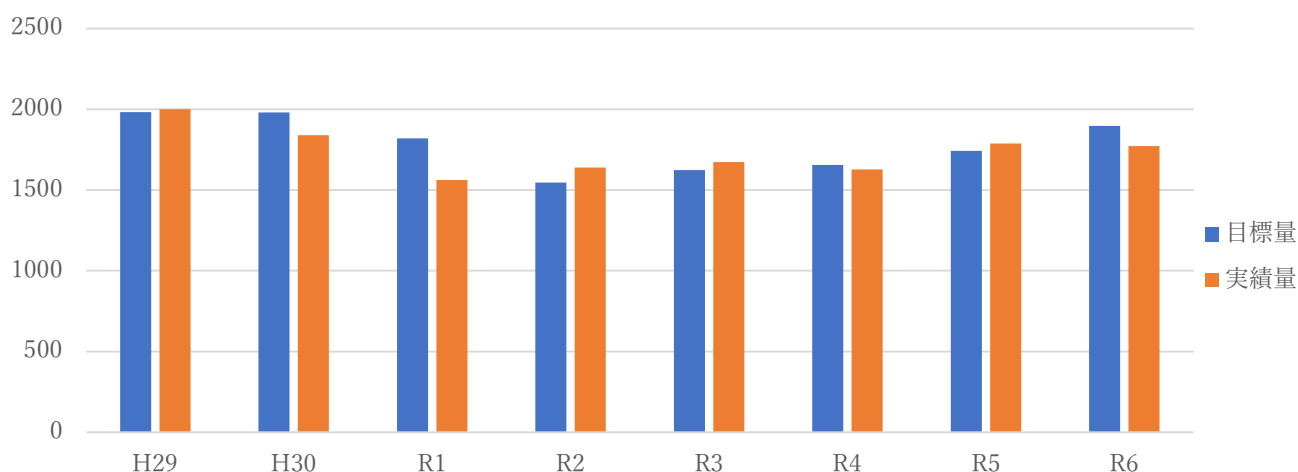


水使用量

(m³)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標量	1983	1981	1820	1546	1623	1655	1742	1897
実績値	2000	1839	1562	1640	1672	1627	1788	1773

水使用量



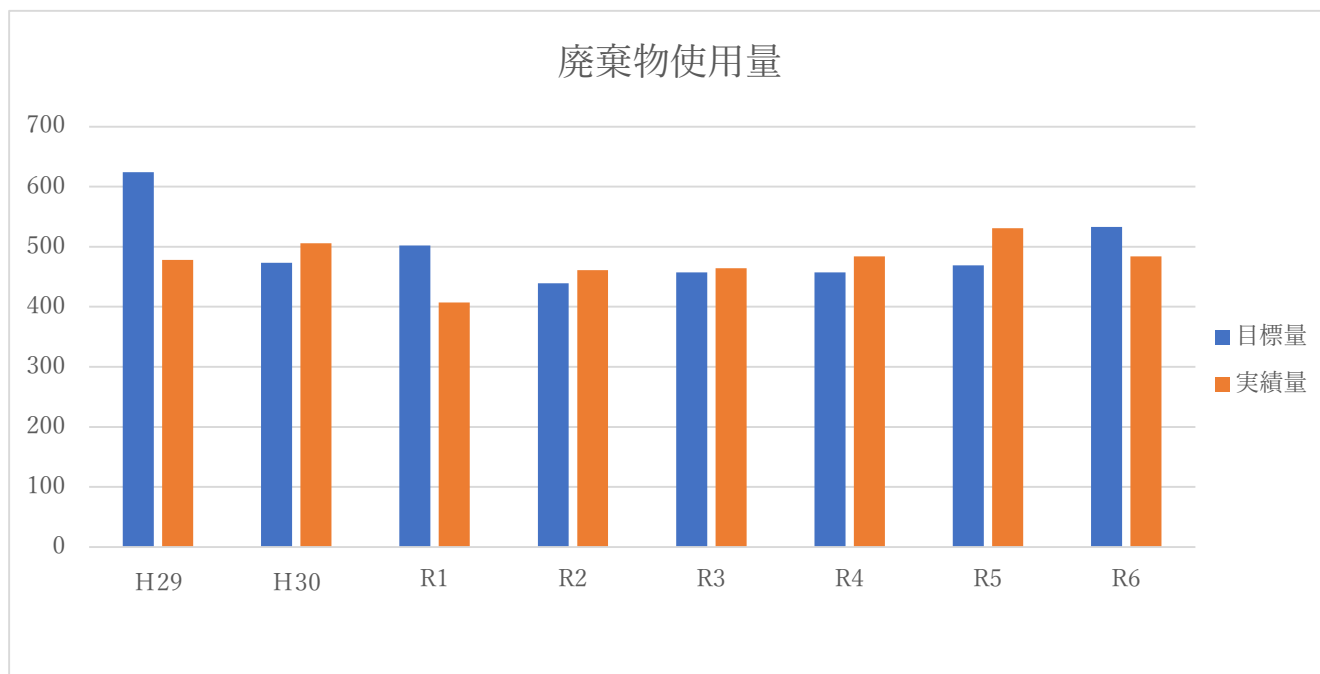
環境経営目標 & 達成状況の推移（H29～R6）

【全社】

廃棄物使用量

(t)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標量	624	473	509	427	457	457	469	533
実績値	478	506	432	461	464	484	531	484



Ⅷ. 環境経営目標の評価（是正処置）

電気使用量	日々の節電等に努めてきたため、達成率が 96% とほぼ達成できました。また、事業所別に見ても 3 事業所が目標達成でき、沼津も 98% とほぼ達成しております。引き続き節電に努めていきます。
ガソリン・軽油	ガソリンは全体的に見ますと達成率 98% と目標をほぼ達成する事が出来ましたが、富士と大田原が仕事増により大幅に目標値を超えて使用していました。軽油は達成率が 101% と目標達成できました。事業所別にみても 97% 以上とほぼ達成しています。
水使用量	目標値に対して達成率 100% と目標を達成することができました。事業所別に見ると沼津が目標達成することが出来ませんでした。水道管の水漏れがあったため、使用量が増加してしまっした。
廃棄物	達成率 90% と目標を達成できませんでした。富士においては達成率 56% と目標量に対して廃棄量が大幅に増えてしまった為、来期は廃棄物の削減に徹底して取り組み、削減に繋げていきます。
グリーン購入	今回よりこれまで購入したことがない新たに購入するエコ商品の購入に努め、全営業所達成することが出来ました。来期も引き続き積極的にエコ商品の購入に努めます。

Ⅸ. 環境経営活動計画の内容、その評価と次年度の取組内容

環境目標	環境活動(取組)計画	その評価	次年度の計画
前年対比で			
電気使用量の削減 1%削減	未使用の部屋、トイレ、通路の消灯の徹底	昨年に引き続き徹底出来た。次年度も継続して取り組む。	○ 活動は前年度を継続して取り組む。
	退社時コピー機、パソコン、プリンター、エアコンの電源OFFの徹底	昨年に引き続き徹底出来た。次年度も継続して取り組む。	
	エアコン使用時の温度設定(冷房 26° ~ 28 暖房 22° ~ 24°)の徹底	温度設定を表示する事で温度設定が遵守できた。次年度も継続して取り組む。	
化石燃料の削減 (ガソリン・軽油) 1%削減	エコドライブの推進(急発進・急加速・空ふかしの抑制)アイドリングストップの徹底	取り組み内容が徹底されたことで燃料及び経費の削減につながった。次年度も継続して取り組む。	◎
	エコカーの導入及びフォークリフト入替時バッテリー車の導入	取り組み内容が徹底されたことで燃費及び経費の削減につながった。次年度も継続して取り組む。	◎
	デジタコ データより改善点を個々に指導することでエコドライブの向上を図る	取組内容が徹底されたことで燃費向上につながった。	◎
水使用量の削減 1%削減	水を使用する場合は、こまめに蛇口を開閉するなど節水を心掛ける	社員 1 人 1 人の節水に対する意識の向上が高まっています。次年度も継続して取り組む。	○
廃棄物の削減 1%削減	リサイクル率の向上	全体では目標に対して未達成という結果となりました。次年度は各事業所において梱包資材のリサイクル率の向上に努めていく。	◎
	分別収集の徹底	昨年に引き続き徹底出来た。次年度も継続して取り組む。	○
	両面コピー・裏紙使用の徹底	昨年に引き続き徹底出来た。次年度も継続して取り組む。	○
グリーン購入の推進	エコ商品の購入	全社でエコ商品の購入が徹底されています。次年度も継続して取り組む。	○
化学物質の適正管理	原材料のSDSに基づいて管理をする。	計画通り管理しています。次年度も継続して取り組む。	○

◎・・・徹底して取り組む ○・・・継続して取り組む ×・・・継続するが廃止

X. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

評価日：2024 年 7 月 1 日

環境関連法規制	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法 (産業廃棄物)	・ 産業廃棄物置場の保管基準の順守 ・ 産業廃棄物の委託契約の締結 ・ マニフェストの発行・保管 ・ マニフェストの前年度交付状況の報告(知事)	適正
省エネ法	・ 電気使用量の削減 ・ 燃料の削減	適正
家電リサイクル法	・ 廃棄時に指定業者に処理依頼	適正
フロン排出抑制法	・ 廃棄時に指定業者に処理依頼 ・ 簡易点検	適正
自動車リサイクル法	・ リサイクル料金の支払い ・ 廃棄時に指定業者に処理依頼	適正
消防法(危険物関連)	・ 指定数量の 1 / 5 未満の確認 ・ 基準在庫を決めて管理	適正
P R T R 法	・ 化学物質の適正管理	適正
オフロード法	・ 基準適合車の使用	適正
関税法 通関法	・ 許可の更新手続き(保税蔵置場) ・ 変更届の提出 ・ 貨物管理規定に基づき管理・記帳	適正
浄化槽法	・ 浄化槽管理 ・ 保守点検、清掃	適正

環境関連法規については、法令遵守をしていました。
過去 3 年間行政からの指摘事項や指導や近隣住民からの苦情等もありませんでした。
環境関連法規への違反、訴訟等も 1 件もありませんでした。

株 式 会 社 大村総業
代表取締役 等々力けい子



（全体の活動評価）

2008 年にエコアクション 21 の認証を取得してから今年で 16 年目に入ります。ウクライナの戦争の継続に加え、パレスチナ紛争勃発により世界情勢は不安定となり、石油資源をはじめ原材料の高騰による物価上昇の影響を受け、当社におきましても資材費、燃料費等の高騰と厳しい状況が継続する中、社員一人一人が自分の役割分担を認識し実践することで環境負荷の低減及び CO2 の削減に取り組んでいることは大いに評価しております。また、2023 年 5 月にコロナが 5 類へ移行したことで経済活動が活発となったことで 71 期は 70 期に対して仕事量が増加しました。その影響で電気・化石燃料・廃棄物が増加し、CO2 排出量も目標を達成する事ができませんでした。しかしながら CO2 排出量を原単価で比較した場合は昨年に対して削減されていますので 72 期も引き続き二酸化炭素排出量の削減に取り組んでください。また、環境関連法規も遵守されており、環境に関する苦情は 1 件も無かったので今後も継続をしてください。

（全体の見直し）

会社全体の方針として取り組んでいる IT 化の推進については、新たな給与システムの導入、給与明細のペーパレス化、運転手のアルコールチェックのクラウド管理、自動車点呼システムの導入等、業務の効率化及び環境負荷の削減に繋がっています。72 期は指紋認証と新給与システムの連動、マイナンバー管理の電子化、年末調整の電子化によるペーパレス化、残業時間の減少による電気使用量の削減を図っていきます。今回、環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制の変更はありません。